「命はひとつ　～意識を変える～」

令和２年度　高知県学校安全総合支援事業（災害安全）

拠点校　高知県立中村特別支援学校

１　拠点校の取組

（１）拠点校の目標

ア．背景・課題

本校は南海トラフ地震で発生が予想される津波による被害は想定されない高台に位置しているが、土砂災害や通学路の遮断など地震による大きな被害を受けることは想定される。また、本校の周辺は土砂災害危険地区になっている。

○校舎等について

実際に震度６以上の地震が発生した場合に、建物や校舎内がどのような状況になるのか具体的に想定することが必要である。発災時に危険なものはないか、教室環境等についても見直す必要がある。

○登下校中に発災した場合の状況や安否の確認

広範囲から通学している。通学の方法もさまざまである。特に単独で通学している児童生徒についての安否確認や障害のある児童生徒の安全確保については課題がある。

○スクールバス

運行経路上の避難場所を決めている。避難訓練も年に１回実施し、バスへの駆け付け方や連絡方法、児童生徒の誘導などについての確認はできているが、実際に発災した場合、教員が駆けつけることができない場合も考えられる。その場合は、乗務員３名で、40 名前後の障害のある児童生徒の安全確保をしなければならない。また、状況によっては、児童生徒が長時間バスの中、あるいは、避難場所で乗務員３名のみの支援で待機しなければならないことも想定される。

○防災学習

学校でのパターン化した避難訓練では速やかに避難行動ができているが、突発的な状況下で自分の身を守る行動がとれるかどうかについては十分に想定できていない。

学校での防災学習については、避難訓練の事前事後学習等、避難行動を中心とした内容に偏っており、系統的な防災学習は十分にはできていない。災害から自分の身を守る力を身に付けさせるための系統的な防災学習に取り組むことが必要だと考える。

○保護者

昨年度の学校評価アンケートの「ご家庭で、地震などの災害が起こった時の避難方法等について話をすることがありますか」の問いに３割近くの保護者が「（していると）思わない」と回答している。また、自宅周辺の避難場所についても約３割の家庭がまだ決めていない。家庭によって、防災に関する意識に差がある。また、障害のある子どもが安全に避難できるのか、避難所での生活に対応できるのか不安に思っている保護者も多くいる。

○教職員

各マニュアルについては、年度当初に周知を図っている。また、これまで防災に関する研修会を行なってきたが、防災に対する意識には差があると思われる。教職員の防災に関する知識や意識等についての現状を把握するとともに、「知っている」から「行動できる」になることが課題である。

○地域

避難所に関しての取組は四万十市や地域と連携して行っている。また、日ごろから必要に応じて児童生徒の支援に関して各関係機関と連携して行っているが、防災についてどのように連携していくかについては今後検討していく必要がある。

これまでの防災に関する取組により、教職員、保護者とも今後３０年以内に起こると想定される南海トラフ地震に備えることの大切さは理解できている。児童生徒も定型の避難行動はできるようになった。しかし、上で示した通り、発災時の状態について漠然としたイメージしかもてていない、防災に関してどこまで高い意識をもてているのかが把握できていない、防災学習の内容に偏りがあり、系統的なものになっていないなど多くの課題がある。

イ．目標

今年度は、まず、「知る」「気付く」をテーマに取り組むこととする。

○学校全体で防災学習に取り組み、授業改善を図り、系統的な防災学習につなげる。

○児童生徒・教員・保護者の防災に関する意識が向上し、より多くの危険に気付くようになる。

○地域に本校の防災学習の取組を発信することにより、防災に関する地域と連携した取組が具体的に提案される。

（２）安全教育の充実に関する取組

○防災学習

・全ての学級が生活単元学習等で防災学習に取り組む。

・防災学習に関するキャリア発達段階表（仮称）を作成する。（系統的な防災教育につなげる）

・課題に沿った避難訓練を実施する。

○意識の向上

・教職員、保護者が防災に関して気付きを促す取組を行う（意識調査、研修会、危険箇所チェック表）。

・引き渡し訓練を実施する。

○地域への発信

・参観日に防災に関する授業を公開する。

・ホームページで取組の紹介を行う。

（３）安全管理の充実に関する取組

○地震対策マニュアルの改訂

・専門家の助言、指導を受けて危険箇所及び避難経路の確認を行い、学校安全委員会で協議し改訂した。

○火災発生対応マニュアルの作成

・火災発生における対応策の検討を行い、作成した。

○緊急時引き渡しマニュアル及び児童生徒引き渡しカードの作成

・引き取り者の情報をデータ化し、児童生徒引き渡しカードの番号と照合し、緊急時における安心安全な引き取りが行えるようになった。

○教室安全点検表の作成及び実施

・各教室に安全点検表を設置し、毎月清掃の時間に児童生徒が自ら危険箇所の点検を確認する取組の一つとなった。

（４）成果と課題

＜成果＞

○防災学習

・下記の表の防災学習に関するキャリア発達段階表（仮称）を使用し、全ての学級が生活単元学習等で防災学習に取り組んだ。防災学習では、指導略案にキャリア発達段階表に基づく児童生徒の段階を明記し、授業実践を行った。

防災学習　キャリア発達段階表

目指す児童生徒像			防災に対する意識を高めるとともに、安心安全で楽しい学校生活を送れる			
項目		類型等	小学部		中学部	高等部
			1～3年	4～6年	1～3年	1～3年
備える	災害を知る	Ⅲ	○地震の時に起こる危険を知り、正しい判断と安全な行動を知る。	○地震の時に起こる危険を知り、正しい判断と安全な行動、危険に対する心構えを知る。	○地震・津波発生のメカニズムを知り、地震時に発生する様々な危険について知る。また、正しい情報の入手の仕方について知る。	○地震・津波発生のメカニズムを知り、地震時に発生する様々な危険について知る。また、正しい情報の入手と発信の仕方について知る。
		Ⅰ・Ⅱ	○支援を受けながら、南海トラフ巨大地震が来ることを知る。 ○緊急地震速報の意味を理解する。	○支援を受けながら、南海トラフ巨大地震が来た状況を知る。 ○緊急地震速報の意味を理解する。	○南海トラフ巨大地震の大まかな仕組みを知る。 ○緊急地震速報の仕組みを知る。	○南海トラフ巨大地震の大まかな仕組みを知る。自分の住む地域や学校、通学路に発生する危険を知る。 ○緊急地震速報の仕組みを知り、有効に活用できる。
		重複	○緊急地震速報や支援者からの避難の声掛けに反応できる。（状況の変化への気付き）	○緊急地震速報や支援者からの避難の声掛けに反応し、快・不快を表情や声、身体の動きで表すことができる。	○緊急地震速報や支援者以外の人からの避難の声掛けに反応できる。	○緊急地震速報や支援者以外の人からの避難の声掛けに反応し、快・不快を表情や声、身体の動きで表すことができる。

・各学部の防災学習では、小学部は地震について知ることや頭を守ること等の「基礎・基本的な知識の習得」を中学部は、避難の仕方や防災グッズ、防災食の理解等の「基礎的・基本的な技能の習得」を、高等部では、発災後の生活についてや自分の地震対策ブックの作成、想定ゲーム等の「思考力・判断力・表現力」を柱に取り組むなど、発達段階に合わせた防災学習を実施した。回を重ねるごとに、避難行動が自ら取れるようになったり、避難所生活に必要なものを自分たちで考えたりするなど、主体的に取り組もうとする姿が見られるようになった。

・学習指導略案作成や各学部間の授業参観を通じて他学部の取組を共有することができた。

・学習指導略案を基に防災学習指導内容配列表（試案）を作成した。

「授業風景」

（小学部）
頭をしっかり守ろう

（中学部）
ペットボトルカイロを作ろう

（高等部）
防災トイレを作ろう

○避難訓練

・避難訓練（今年度はコロナウイルス感染症拡大により年間３回実施）では、コロナウイルス感染症対策を敷く各学部での避難訓練や、本校では初となる予告なしによる避難訓練の実施をした。また、火災避難訓練では、四万十市消防の協力のもと、煙キットを使用し視界が見えない想定での訓練を行った。避難訓練後には、全教職員にアンケートを配布し、反省と課題を共有し次につなげることができた。

「訓練の様子」

３密を防ぐための
各学部での避難訓練

廊下でダンゴムシのポーズ

火災を想定しての煙体験

〇その他（意識の向上、マニュアルの改訂、防災学習の情報発信等）

・地震の仕組みや身を守る方法、防災食等の防災学習を通して児童生徒の防災意識の向上が見られた。
・教職員については、防災の研修会並びに防災学習の実践により防災意識の向上が見られた。
・専門家の指導、助言を受け、地震対策マニュアルの改訂や避難訓練の内容等の改善等につながった。
・安全点検については、各教室に教室安全チェック表を設置した。
・全校一斉の防災学習公開授業を実施し、実践委員の方々に参観して頂き、本校の取組を発信できた。
・「令和２年度防災学習の発表について（国際中学校）」に参加して、佐賀中学校の取組や武田真一教授の講演を聞いた。この発表会に参加して、防災を通しての地域とのつながり方や思考力、探求力を育む授業実践を学ぶことができた。
・新型コロナウイルス感染症に対応した（密を避ける）避難訓練を実施できた。

＜課題＞

・計画的、系統的な防災学習の実践に至らなかった。
・家庭と連携した防災教育が実施できなかったので、今後は家庭でも取り組んでいける防災教育の情報発信をしていく。
・発災後の引き渡し訓練の実施ができなかったので、次年度は引き渡し訓練を実施する。
・新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、全教職員での研修会が実施できなかった。コロナ渦でも対応できる研修会を計画し、実施する。
・防災学習の年間計画並びに学習指導略案の様式を改善する。
・教室安全点検チェック表は、月によって未実施の学級があった。今後、「点検の日」を設定し、周知徹底し確実に実施する。
・新型コロナウイルス感染症拡大により、参観日や研修会の実施に制約があった。コロナ渦に対応できる情報発信の方法を検討する。地域への本校の防災学習の取組の発信が十分できなかった。

2　事業の成果と課題

＜成果＞

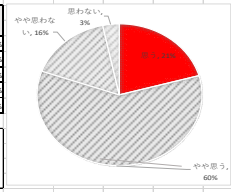
〇意識の向上

・教職員に対して防災に関する意識調査を年２回実施した。
　２回のアンケートを分析すると全ての項目において意識の向上が見られる結果となった。

１回目

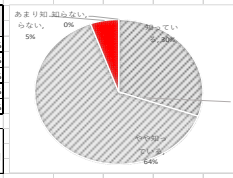
令和2年度　第１回防災アンケート（6月30日実施）

①私は、これまでの学校の防災学習は十分できていると思う。	人数（人）	割合（%）
思う	19	21%
やや思う	55	60%
やや思わない	15	16%
思わない	3	3%
合計	92	100%



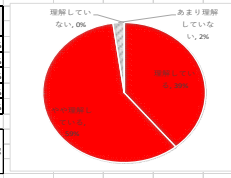
（考察）:問①
「思う」又は「やや思う」と回答した教員が全体の80%以上が防災教育が十分であると感じていることが分かった。「やや思わない」「思わない」の意見が全体の20%を占める。今後も、より一層の防災教育の推進と実際的具体的な学習の実践が必要である。

②私は、地震が発生する仕組みについて知っている。	人数（人）	割合（%）
知っている	28	30%
やや知っている	59	64%
あまり知らない	5	5%
知らない	0	0%
合計	92	100%



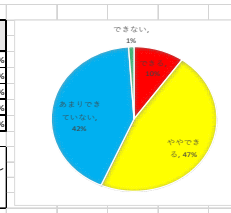
（考察）：問②
「知っている」又は「やや知っている」と回答した教員が90%以上、地震の発生する仕組みを知っていることが分かり、関心の高さが伺える。

③私は、緊急地震速報の内容を理解している	人数（人）	割合（%）
理解している	36	39%
やや理解している	54	59%
あまり理解していない	2	2%
理解していない	0	0%
合計	92	100%



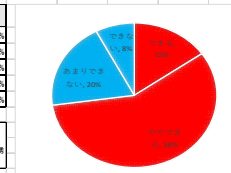
（考察）：問③
問②同様に90%以上の教員が緊急地震速報の内容を理解している。

④私は、発災時に起こる自校の災害状況を想定できる。	人数	割合（%）
できる	9	10%
ややできる	43	47%
あまりできていない	39	42%
できない	1	1%
合計	92	100%



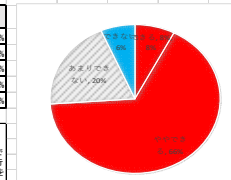
（考察）：問4
「あまりできていない」「できない」の回答が40%以上存在している。適切な行動をとるためには、想定ができることが必要であり、専門家の知見や研修会を通して周知していきたい。

⑤私は、災害が起きた時に、児童生徒に適切な指示ができると思う。	人数	割合
できる	14	15%
ややできる	53	58%
あまりできない	18	20%
できない	7	8%
合計	92	100%



（考察）：問⑤
「できる」又は「ややできる」の回答が全体の70%以上で、「あまりできない」又は「できない」が全体の約30%いる。避難訓練等を通して、指示や誘導の仕方を今一度具体的に確認することが必要である。

⑥私は、災害が起きた時に児童生徒がどのような行動をするのかを想定できる。	人数	割合
できる	7	8%
ややできる	61	66%
あまりできない	18	20%
できない	6	7%
合計	92	100%

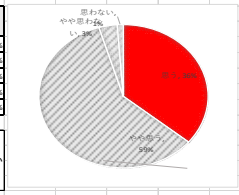


（考察）：問⑥
「できる」又は「ややできる」の回答が全体の70%以上で、「あまりできない」又は「できない」の回答が約30%いる。日々の児童生徒の行動を観察し、学級担任全員が災害が起こった時の児童生徒の行動を想定しておくことは重要である。

２回目

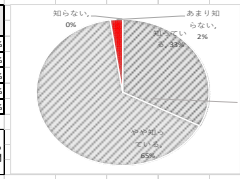
令和2年度　第2回防災アンケート（12月22日実施）

①私は、これまでの学校の防災学習は十分できていると思う。	人数（人）	割合（%）
思う	31	36%
やや思う	51	59%
やや思わない	3	3%
思わない	1	1%
合計	86	100%



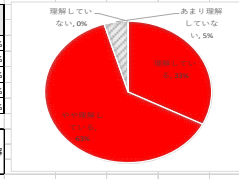
（考察）:問①
「思う」又は「やや思う」と回答した教員が全体の90%以上が防災教育が十分であると感じていることが分かった。しかし、今取り組んでいる防災学習に満足せず、より一層の防災教育の推進と実際的具体的な学習の実践が必要である。

②私は、地震が発生する仕組みについて知っている。	人数（人）	割合（%）
知っている	28	33%
やや知っている	56	65%
あまり知らない	2	2%
知らない	0	0%
合計	86	100%



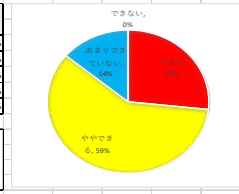
（考察）：問②
「知っている」又は「やや知っている」と回答した教員が90%以上、地震の発生する仕組みを知っていることが分かり、関心の高さが伺える。

③私は、緊急地震速報の内容を理解している	人数（人）	割合（%）
理解している	28	33%
やや理解している	54	63%
あまり理解していない	4	5%
理解していない	0	0%
合計	86	100%



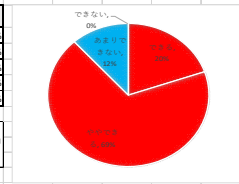
（考察）：問③
問②同様に90%以上の教員が緊急地震速報の内容を理解している。

④私は、発災時に起こる自校の災害状況を想定できる。	人数	割合（%）
できる	23	27%
ややできる	51	59%
あまりできていない	12	14%
できない	0	0%
合計	86	100%



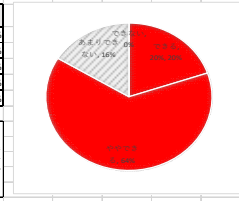
（考察）：問4
専門家の知見や研修会を通して周知したことにより、自校の災害状況が想定できると回答した教員が全体の80%以上に増加した。

⑤私は、災害が起きた時に、児童生徒に適切な指示ができると思う。	人数	割合
できる	17	20%
ややできる	59	69%
あまりできない	10	12%
できない	0	0%
合計	86	100%



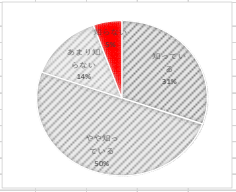
（考察）：問⑤
「できる」又は「ややできる」の回答が全体の80%以上で、「あまりできない」又は「できない」が全体の約10%いる。避難訓練等を通して、指示や誘導の仕方を今一度具体的に確認することが必要である。

⑥私は、災害が起きた時に児童生徒がどのような行動をするのかを想定できる。	人数	割合
できる	17	20%
ややできる	55	64%
あまりできない	14	16%
できない	0	0%
合計	86	100%



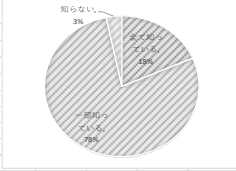
（考察）：問⑥
「できる」又は「ややできる」の回答が全体の80%以上で、「あまりできない」又は「できない」の回答が約20%いる。日々の児童生徒の行動を観察し、学級担任全員が災害が起こった時の児童生徒の行動を想定しておくことは重要である。

⑦私は、学校の備蓄品の保管場所や備蓄内容について知っている。	人数	割合
知っている	28	30%
やや知っている	46	50%
あまり知らない	13	14%
知らない	5	5%
合計	92	100%



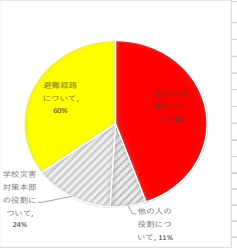
（考察）：問⑦
「知っている」又は「やや知っている」の回答が全体の80%で約20%が「あまり知らない」又は「知らない」と回答している。発災後の児童生徒の命をつなぐ重要なことである。ぜひ知っておいてほしい。

⑧私は、学校の消火器やAED、担架の設置場所を知っている。	人数	割合
全て知っている	17	18%
一部知っている	72	78%
知らない	3	3%
合計	92	100%



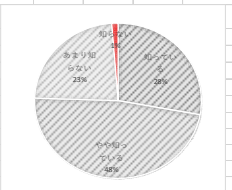
（考察）：問⑧
「全て知っている」が18%、「一部知っている」が78%、「知らない」が3%の結果となった。学校内にある担架の場所や消火器の位置は確実に知る必要がある。対応策を検討したい。

⑨あなたが、学校の地震対策マニュアルの内容について理解していることは何ですか。	人数	割合
自分の役割について	70	76%
他の人の役割について	10	11%
学校災害対策本部の役割について	22	24%
避難経路について	55	60%
児童生徒の引き渡し方法について	44	48%
学校再開に向けた対応について	4	4%
発災時別の基本的対応について	25	27%
合計	92	100%



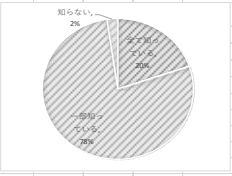
（考察）：問⑨
地震対策マニュアルの内容の理解については、「自分の役割について」の項目が全体の76%を占め、次いで「避難経路について」が全体の60%を占めるものとなった。逆に理解度が低いものでは「学校再開に向けた対応について」が4%、次いで「他の人の役割について」が11%であった。日頃取り組んでいる訓練や、発災時の自分自身の動きについては関心の高さが伺える一方、発災後の学校運営や周りの人の役割については関心が低いことがわかった。昨年度作成した学校再開計画の実効性を高めることが必要である。

⑦私は、学校の備蓄品の保管場所や備蓄内容について知っている。	人数	割合
知っている	24	28%
やや知っている	41	48%
あまり知らない	20	23%
知らない	1	1%
合計	86	100%



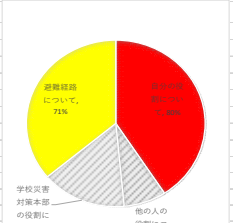
（考察）：問⑦
「知っている」又は「やや知っている」の回答が全体の70%以上で約20%以上が「あまり知らない」又は「知らない」と回答している。発災後の児童生徒の命をつなぐ重要なことである。ぜひ知っておいてほしい。

⑧私は、学校の消火器やAED、担架の設置場所を知っている。	人数	割合
全て知っている	17	20%
一部知っている	67	78%
知らない	2	2%
合計	86	100%



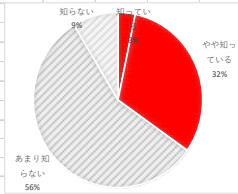
（考察）：問⑧
「全て知っている」が20%、「一部知っている」が78%、「知らない」が2%の結果となった。学校内にある担架の場所や消火器の位置は確実に知る必要がある。

⑨あなたが、学校の地震対策マニュアルの内容について理解していることは何ですか。	人数	割合
自分の役割について	69	80%
他の人の役割について	13	15%
学校災害対策本部の役割について	26	30%
避難経路について	61	71%
児童生徒の引き渡し方法について	48	56%
学校再開に向けた対応について	5	6%
発災時別の基本的対応について	28	33%
合計	86	100%



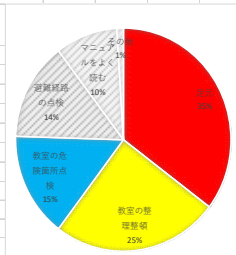
（考察）：問⑨
地震対策マニュアルの内容の理解については、「自分の役割について」の項目が全体の80%を占め、次いで「避難経路について」が全体の70%を占めるものとなった。逆に理解度が低いものでは「学校再開に向けた対応について」が6%、次いで「他の人の役割について」が15%であった。日頃取り組んでいる訓練や、発災時の自分自身の動きについては関心の高さが伺える一方、発災後の学校運営や周りの人の役割については関心が低いことがわかった。昨年度作成した学校再開計画の実効性を高めることが必要である。

⑩私は、地域の防災対策を知っている。	人数	割合
知っている	3	3%
やや知っている	29	32%
あまり知らない	52	57%
知らない	8	9%
合計	92	100%



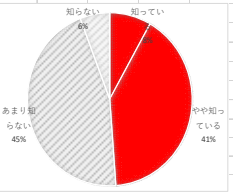
（考察）：問⑩
「あまり知らない」又は「知らない」が全体の60%以上の結果となった。発災時に備えるために地域の防災対策にも目を向ける必要がある。

⑪あなたが、災害時に安全に児童生徒を避難誘導できるよう日頃から備えていることは何ですか。	人数	割合
足元	72	78%
教室の整理整頓	51	55%
教室の危険箇所点検	31	34%
避難経路の点検	29	32%
マニュアルをよく読む	19	21%
その他	2	2%
合計	92	100%



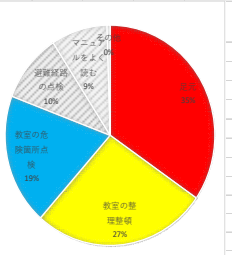
（考察）：問⑪
日頃から備えていることについては、「足元」が全体の78%を占め、次いで「教室の整理整頓」が55%であった。「教室の危険箇所点検」、「避難経路の点検」、「マニュアルをよく読む」は全体の40%をさる結果となり、今後、向上していくように取り組みを検討していく必要がある。

⑩私は、地域の防災対策を知っている。	人数	割合
知っている	7	8%
やや知っている	35	41%
あまり知らない	39	45%
知らない	5	6%
合計	86	100%



（考察）：問⑩
「あまり知らない」又は「知らない」が全体の50%以上の結果となった。発災時に備えるために地域の防災対策にも目を向ける必要がある。

⑪あなたが、災害時に安全に児童生徒を避難誘導できるよう日頃から備えていることは何ですか。	人数	割合
足元	72	84%
教室の整理整頓	56	65%
教室の危険箇所点検	40	47%
避難経路の点検	21	24%
マニュアルをよく読む	18	21%
その他	1	1%
合計	86	100%



（考察）：問⑪
日頃から備えていることについては、「足元」が全体の80%以上を占め、次いで「教室の整理整頓」が65%であった。「教室の危険箇所点検」、「避難経路の点検」、「マニュアルをよく読む」は全体の20%をさる結果となり、今後、向上していくように取り組みを検討していく必要がある。

＜課題＞

- 学校の備蓄品の管理場所や備蓄内容について約 20%があまり知らない、知らないの結果になり、今後も周知する必要がある。
- 災害時に安全に児童生徒を避難誘導できるよう日頃から備えている項目において足元の比率が 84%となり、100%を目指していく。
- 災害時に安全に児童生徒を避難誘導できるよう日頃から備えている項目において学校再開に向けた対応や発災時別の基本的対応についての項目の比率が低いことから各種マニュアルの徹底が必要である。

3　今後の取組

- 防災教育の充実（年間計画や学習指導略案の様式を含む）
- 防災学習指導内容配列表（試案）を作成し、系統的な防災学習を実践できるようにする。
- 家庭と連携した防災教育を実施する。
- 災害時のマニュアル等を実際的なものになるよう見直す。
- 定期的に実際的な避難訓練を実施する

・防災力、防災意識が高まる研修会（リモート研修も含む）を実施する。
・安全点検をルーティンワークにして、点検による設備・物品の設備、管理する仕組みを作る。
・ホームページ等で本校の防災教育について発信する。